

第5学年 道徳学習指導案

令和2年12月16日(水) 第5校時
場 所 5年3組教室
児 童 数 男子15名 女子16名
授 業 者 教諭 小谷野 裕太

1 主題名 生きているからこそ 内容項目【D-19 生命の尊さ】

- 2 本時のねらい 「死」のあるクマと「死」のない石を比較し、「クマの方が良い」と結論を出した子グマの思考を話し合う活動を通して、生命の誕生から死に至るまでの過程の尊さについて気づき、生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重する心情を育てる
- 教材名 クマのあたりまえ (出典「新しい道徳5」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目 D-19 生命の尊さ「生命が多く生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する」ことをねらいとしている。

この段階においては、個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。また、様々な人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が生まれ存在すること、生命が宿る神秘、祖先から祖父母、父母、そして自分、さらに、自分から子供、孫へと受け継がれていく生命のつながりをより深く理解できるようになる。

指導に当たっては、家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。

(学習指導要領 解説 特別の教科 道徳 より)

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、命は大切なものであることを理解し、普段の生活においても言動に気をつけながら他者の命を尊重できる児童が多い。一方で、昨今のニュースやアニメーション、ゲームの中において「死」という言葉が簡単に使用されている影響からか、顔の見えない第三者に対しては「死んだ。」などの言葉を平然と口に出す児童もいる。このことから、「死」というものを他人事としてとらえている児童が多いと考える。

8月には「おばあちゃんが残したもの」において人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が生まれ存在することについて考えを深める授業を行った。その時の授業では、「人が亡くなってもその人の存在自体がなくなる訳ではない。」「たった一つの命を無駄にせず、その人を思い出しながら生きていきたい。」「亡くなった人があたえてくれたものは経験だったり、記憶だったり、必ずあるからそれらを思い出して、(人生の中の)ひとつひとつを頑張っていきたい。」という考えが出ている。この授業では、多くの児童が命の精神的なつながりに気づき、自らの命と結びつけて考えられていた。

また、11月の初めには、「命の授業」と題して、助産師さんを講師に招き、保健関連の話から、この世に生を受けた誕生の喜びについての話を聞く機会があった。これは命のはじまりの部分に目を向ける機会でもあり、そこでは、「お母さん、お父さんに喜んで生まれてきた命を大切にしようと思う。」「5000万分の1を勝ち取ったから自分は存在しているから、命を無駄にしないようにしたい。」「祖先が一人でも欠けたら自分はいないので、奇跡の命を大事にする。」「自分も将来、赤ちゃんを産みたいと感じた。」といった児童の感想があった。

以上のことから、これまでは、「生命というものは周りから望まれたり、影響を受けているから大切にすべき」、つまり『外的要因からの生命の大切さ』について深く考えてきたといえる。そのため、本授業を、生命に内在する有限性や、生命の誕生から死に至るまでの過程は価値のあるものであるといった『内的要因からの生命の大切さ』について考えさせるきっかけとしたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、森で死んだクマを見た子グマが、死なないものになりたいと考えて、石になろうとするが、これまであたりまえにしてきたことができないことが分かって、最後には「死ぬのは今でもこわいけど、クマのほうがいい。」と兄グマといっしょに帰っていくという内容の話である。死を目の当たりにして、死を恐ろしいと感じた子グマだが、これまでいろいろなことを感じたりしたいことをしたりできていたのは、生きているからこそであるということに気づくことができた。児童の発達段階としては、子グマになりきってというよりは第三者的に考えることになるだろうが、子グマの気持ちに寄り添いながら共感的に考え、ねらいに迫っていけるようにしたい。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うこととする。

①子グマが、死なないものになりたいと考えて、石になろうとするところ。

②子グマが「死ぬのは今でもこわいけど、それでもクマのほうがいいってわかったんだ。」と結論を出すところ。

この2つの場面を通して、命の有限性や生命の誕生から死に至るまでの過程の尊さに気づき、ねらいとする道徳的価値の理解を図る。

以上の理由から本時の教材を設定した。

4 学校研究との関わり

【研究主題】 自己の生き方を見つめ、よりよく生きようとする心の力を育む道徳教育
～考え・議論する道徳を目指した授業づくりを中心に～

上記の研究主題を具現化するために、以下の手立てを講じる。

【手立て】

①議論する時間の確保の工夫

中心発問で 15 分時間をかけるために、発問の精選を行った。また、教材の寓話という特質から教材の事前説明は一切省くこととした。考え・議論する時間を確保し、考えの深まる授業としたい。

②物事を多面的・多角的に考える発問の吟味

中心発問は児童が様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚できるようにしている。

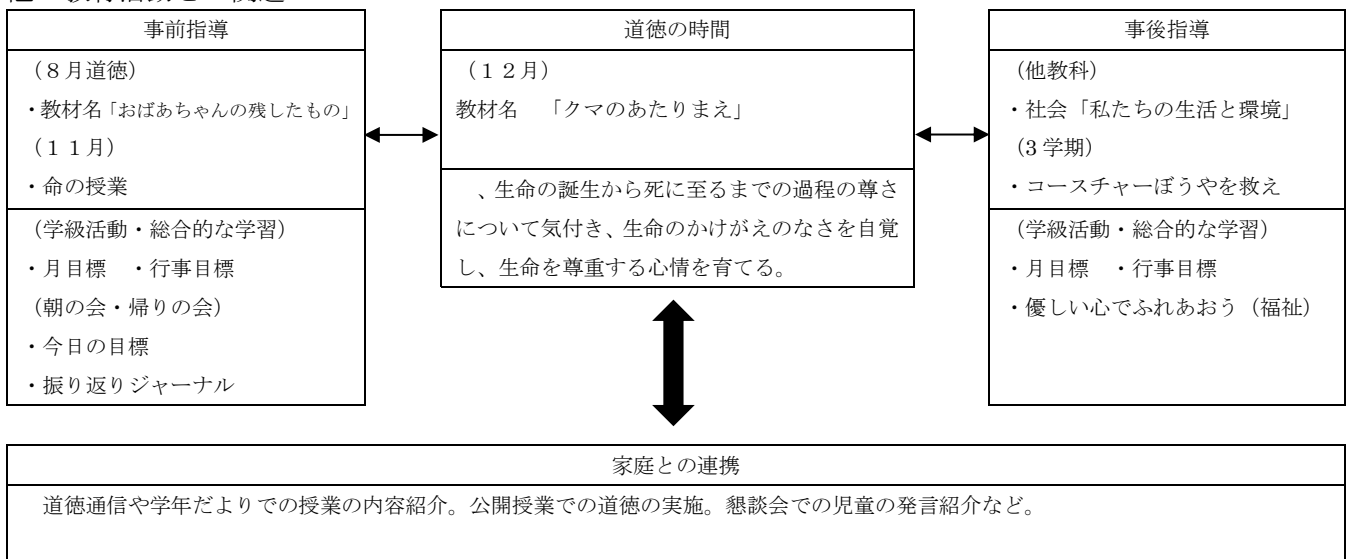
5 学習指導過程

(1) 展開

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	※指導上の留意点 ☆評価の観点	
導入	1 学習問題を設定する。 ○命は大切だよな？なんで、大切だって言えるのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・親が生んでくれたから。 ・祖先がいるから。 ・亡くなって悲しむ人がいるから。 ・一度しかないから。 ・命があるからできることがあるから。 	※始めから多様な考えがでることを予想するが、外的要因と内的要因を分けて板書したい。	5
展開	2 教材の読み聞かせを聞く。 3 内容について話し合う。 ○子グマはどうして死んだおすグマのことが忘れられなかったんだろう？ （「死なないものに生まれたかったよ。」）	<ul style="list-style-type: none"> ・死ぬのが怖くなった。 ・自分もいつかああなと思うと怖い。 ・命に終わりがあることを知った。 	※「死」という不可避の概念を自分事とらえた子グマの気持ちを共感させる。	5
	○クマと石の違いって何だろう？	<ul style="list-style-type: none"> ・『死』がある。『死』がない。 ・歌う、歌わない ・かゆい、感じない、つぶやかない ・おなががすく、思わない ・会える、会いたくない、泣かない 	※黒板を上下でわけ、クマと石の違いを視覚的にも対比しやすくする。	5

	<p>◎「死ぬのは今でもこわいけど、それでもクマのほうがいいってわかったんだ。」子グマはどうして、この結論に達したのだろうか？◎</p> <p>⇒○石は不幸せ？</p> <p>⇒○辛いことや悲しいことだってあるんだよ？</p> <p>⇒○この子グマってこの後、どう生きていくんだろうね。</p> <p>⇒○なんで大切にするんだろう。</p> <p>⇒○生きる意味ってなんだろう。</p> <p>⇒○当たり前でなかったらどう思えるの？</p> <p>⇒○子グマにとって良かったのかな。</p> <p>4 自分を振り返る。</p> <p>○今日、考えたことや気付いたことを自分の生活を振り返りながら、考えてみましょう。◎。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人と心をつなげることができるから。 ・家族がいるから。 ・石は、死んではないけど、生きてもいない。 ・感じたい。心を使いたい。 ・命を大切に思う。 ・命はずっと続かないことがわかったから、時間を大切に思う。 ・生きる意味を知ったから、精一杯生きていくと思う。 ・あたりまえだと思ってたことが、実は当たり前じゃないと思える。 ・死ぬのを受け入れられる。 ・試してみたことで大切なことに気が付けた。 ・あたりまえのように過ごしていた日常は、実はあたりまえじゃなかったことに気付いた。 	<p>※ここでワークシート配布</p> <p>※書く…3分</p> <p>※語り合い…2分</p> <p>※クラス…10分</p> <p>☆子グマの思考を考えることで様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し、書いたり、話し合ったりしている。◎</p> <p>※書く…5分</p> <p>☆これまでの自分を振り返りながら、日常の尊さに気付いたり、自分の生き方について考えたりしている。◎</p>	15
終末	<p>5 教師の説話を聞く。</p> <p>○命の授業で高屋敷先生も言っていたね。</p> <p>「今、自分が生きているのは当たり前？不思議？…」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命の授業の想起 		5

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

☆子グマの思考を考えると様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し、書いたり、話し合ったりしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆生命の誕生から死に至るまでの過程の尊さについてに気づき、その良さをどのような心持ちで生活に生かすか考えている。

8 板書計画

命はなぜ大切か	クマのあたりまえ ・ ・ どうして忘れられなかった	死んだクマ	「死なないものに生まれたかったよ。」	クマ 死がある	石 死がない
・ 歌う ・ 足をかく ・ おなががすく ・ ねむる ・ 会える	・ 歌わない ・ つぶやかない ・ 思わない ・ 会いたくない ・ 泣かない	「死ぬのはこわいけど、クマの方が良い。」 ・ 他の人と心をつなげることができるから。 ・ 家族がいるから。 ・ 石は、死んではなないけど、生きてもいない。 ・ 感じたい。心を使いたい。	この後の子グマ	・ 「生を大切にする。…生きる喜びを知った ・ あたりまえを大切に考える。 ・ 死ぬことを受け入れられる。	

柏原小学校 道徳科授業プランニングシート

5-3担任 小谷野 裕太

① 内容項目

内容項目 (D - 19)
生命の尊さ

② 教材名

教材名
クマのあたりまえ

③ 教師の道徳的価値観の
明確化
※指導要領解説を参考に。

◆生命の誕生から死に至るまでの過程, 限りある命を懸命に生きることの尊さの側面から生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにする。(本時)

④ 児童の実態

命は大切なものであることを理解し、普段の生活から言動に気をつけ、他者の命を尊重できる児童が多い。一方で、ニュースやゲームの中において「死」という言葉をを軽んじて使用する頻度が多い児童もいる。
8月には「おばあちゃんが残したもの」において人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が生まれ存在することについて考えを深める授業を行った。また、11月には助産師さんを講師に招いた命の授業を行い、命の誕生の喜びに触れている。

ねらい

(A) 「死」のあるクマと「死」のない石を比較し、「クマの方が良い」と結論を出した子グマの思考を話し合う活動 を通して

(B) 生命の誕生から死に至るまでの過程の尊さ について気付き、(について考え)

(C) 生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重 する(判断力・心情・実践意欲・態度)を育てる。

⑥ 中心発問 ◎
補助発問 ○
児童の反応 ・

◎「死ぬのは今でもこわいけど、それでもクマのほうがいいってわかったんだ。」子グマはどうして、この結論に達したのだろうか？
・他の人と心をつなげることができるから。
・家族がいるから。 ・感じたい。心を使いたい。
○辛いことや悲しいことだってあるんだよ？
○石だと不幸せ？
・石は、死んではないけど、生きてもない。
○この子グマはこの後どうやって生きていくと思う？
・命を大切にするとと思う。
・命はずっと続かないことがわかったから、時間を大切にするとと思う。
・死ぬのを受け入れられる。⇒○子グマにとって良かったのかな。

⑦ 導入と終末を除いた展開部分の中心発問以下外の発問

○子グマはどうして死んだおすグマのことが忘れられなかったんだろう？
（「死なないものに生まれたかったよ。」）
○クマと石の違いって何だろう？

⑧ 導入

○命は大切だよな？なんで、大切だって言えるのだろう。

⑨ 終末

○命の授業の想起。
○今日、考えたことや気付いたことを自分の生活を振り返りながら、考えてみましょう。㊦

※ 評価の視点を1時間の中に入れる。㊦自分事としてとらえる／㊧多面的・多角的

板書計画(手書き・写真もOK)

命はなぜ大切か

クマのあたりまえ

どうして忘れられなかった

死んだクマ

いものに生まれたかったよ。」

クマ

死がある

歌う

足をかく

おなががすく

ねむる

会える

石

死がない

歌わない

つぶやかない

思わない

会いたくない

泣かない

「死ぬのはこわいけど、クマの方が良い。」

他の人と心をつなげることができるから。

家族がいるから。

石は、死んではいけないけど、生きてもいけない。

感じたい。心を使いたい。

この後の子グマ

「生を大切に。…生きる喜びを知ったあたりまえを大切に考える。

死ぬことを受け入れられる。

授業後の振り返りやメモなど

Large empty rounded rectangle for post-lesson reflection or notes.